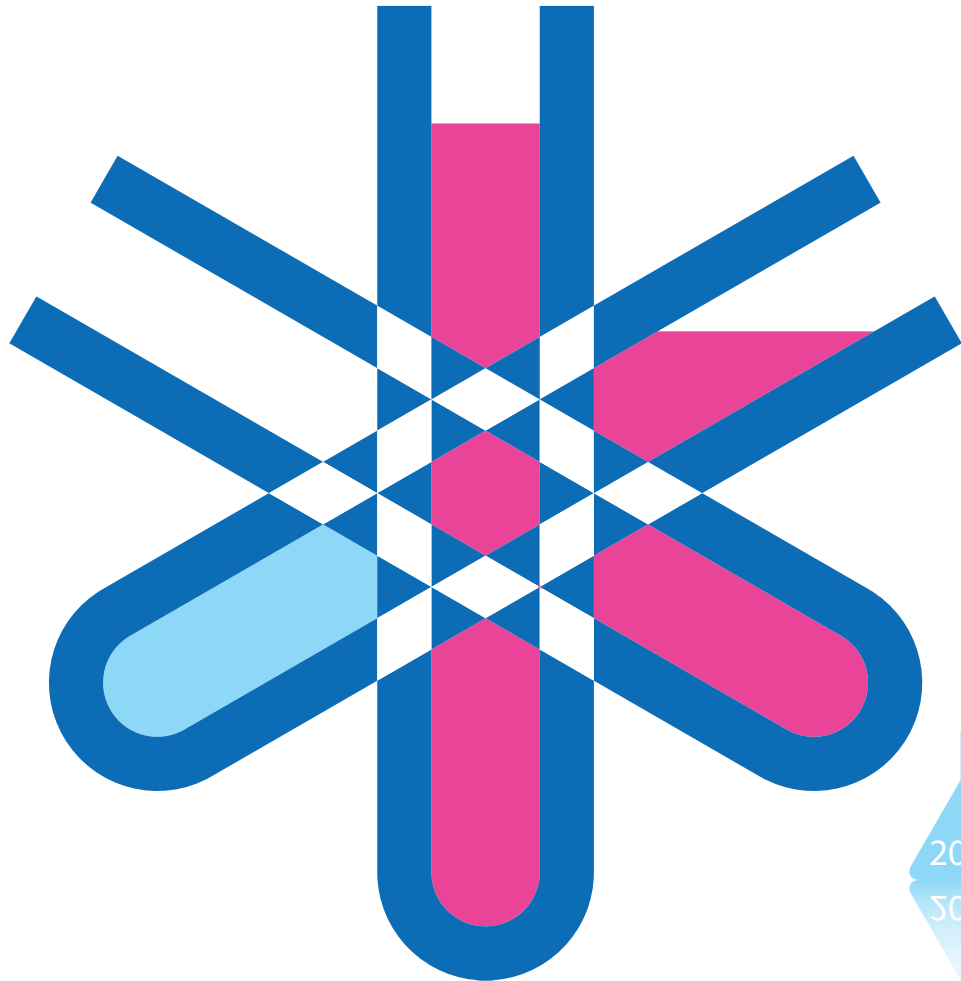


横查情報月報



2020
5050

1
月
目

横浜市衛生研究所

令和2年1月号 目次

【検査結果】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果(令和元年5月～10月)	1
食品中の動物用医薬品検査結果(令和元年11月)	5
アレルギー物質を含む食品の検査結果(令和元年10月)	6

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 12月	8
-----------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	12
---------------------	----

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果(令和元年5~10月)

当所では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります(表1)。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことが必要です。

令和元年は電池式ライトトラップ(CDC型:写真1)を用いた蚊成虫捕獲調査を市内26か所(各10回、リスク地点は各12回:6か所)で行いました(図1、表2)。ライトトラップには、蚊成虫の誘引剤として保冷容器に入れたドライアイス^{ひとつり}をトラップ屋根の上部に設置しました。ライトトラップの設置回収は、各区福祉保健センター、(公社)神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。また、山下公園(中区)、横浜公園(中区)、新横浜公園(港北区)では、捕虫網を用い、ヤブカ属の捕獲を目的とした8分間人囮法を各公園内3定点で各12回行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。本稿では、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト

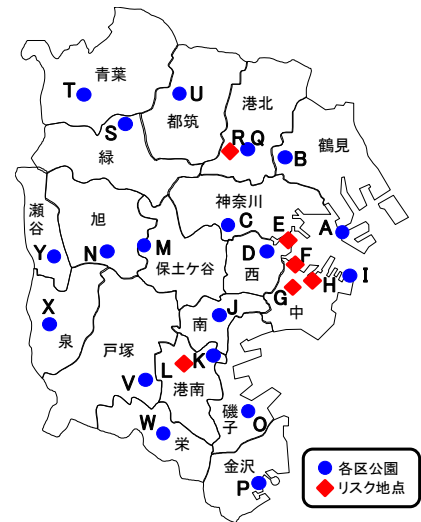


図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒ふ頭中央公園(A)	南	蒔田の森公園(J)	港北	新横浜公園*2
	馬場花木園(B)	港南	久良岐公園(K)		(日産スタジアム)(R)◆
神奈川	三ツ沢公園(C)		日野公園墓地(L)◆	緑	北八朔公園(S)
西	掃部山公園(D)	保土ケ谷	陣ヶ下溪谷公園(M)	青葉	桜台公園(T)
	臨港パーク(E)◆	旭	こども自然公園(N)	都筑	都筑中央公園(U)
中	山下公園(F)◆	磯子	坪呑公園(O)	戸塚	舞岡公園(V)
	横浜公園(G)◆	金沢	海の公園(P)	栄	本郷ふじやま公園(W)
	港の見える丘公園(H)◆	港北	新横浜駅前公園(Q)	泉	泉中央公園(X)
	シンボルタワー(I)*1			瀬谷	二ツ橋南公園(Y)

◆ リスク地点(全12回調査):観光客の訪問、イベント開催、蚊の発生源・潜み場所が多い等が想定される場所

*1 シンボルタワーは、台風による被害のため、8回目(9月中旬)以降の調査は中止

*2 新横浜公園(日産スタジアム)については、東ゲートと西ゲートの2か所で調査を実施

〈ライトトラップ法による蚊の捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊の種類と捕獲数を表3に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属11種11,142個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ7,820個体(70.2%)でした。次いで、アカイエカ群が2,434個体(21.8%)、ヤマトヤブカが362個体(3.2%)、コガタアカイエカが198個体(1.8%)、キンバラナガハシカが141個体(1.3%)捕獲されました。

表3 蚊の種類と捕獲数(ライトトラップ法:6か所×12回 19か所×10回 1か所×7回)



写真1 CDC型ライトトラップ

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*3	2,380	54	2,434	(21.8)
	コガタアカイエカ	198	0	198	(1.8)
	カラツイエカ	25	0	25	
	クシヒゲカ亜属	1	1	2	
カクイカ属	トラフカクイカ	2	0	2	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	6,980	840	7,820	(70.2)
	ヤマトヤブカ	356	6	362	(3.2)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	51	0	51	
ナガハシカ属	キンバラナガハシカ	97	44	141	(1.3)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	37	4	41	
チビカ属	フタクロホシチビカ	1	0	1	
破損(同定不能)		63	2	65	
合計		10,191	951	11,142	

*3: アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、掃部山公園(西区)で1,573個体でした。次いで、大黒ふ頭中央公園(鶴見区)が1,053個体、馬場花木園(鶴見区)が1,023個体でした。この3地点は、ヒトスジシマカが非常に多く捕獲されました(掃部山1,521個体、大黒712個体、馬場945個体)。またシンボルタワー(中区)は、台風15号の被害のため9月中旬以降調査ができず、全7回の調査でしたが、928個体捕獲され、そのうちアカイエカ群が770個体と多く捕獲されました。

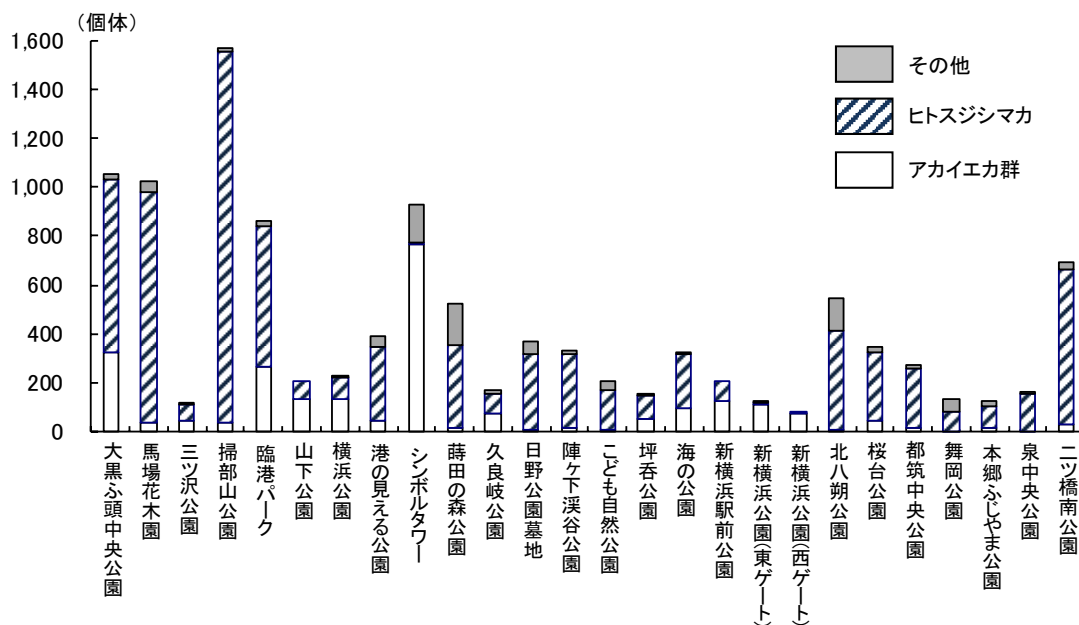


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとひとり
 〈人囮法によるヒトスジシマカ捕獲調査: 山下公園、横浜公園、新横浜公園〉

山下公園、横浜公園、新横浜公園の各3定点(図3)、合計9定点において、人囮法(写真2)による蚊成虫調査を各12回行いました。調査の結果、ヒトスジシマカの雌成虫は404個体、雄成虫は273個体、合計677個体捕獲されました。また、調査定点別の蚊捕獲数を表4に示しました。



地図: Google mapより

①発電設備横 ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地



地図: Google mapより

④市役所前 ⑤遊具広場横
 ⑥日本庭園スタジアム側



地図: Google mapより

⑦東ゲート駐輪場奥 ⑧北ゲート階段奥
 ⑨西ゲート広場脇

ひとひとり
 図3 山下公園、横浜公園、新横浜公園の調査定点(人囮法)



ひとひとり
 写真2 人囮法

ひとひとり
 表4 人囮法によるヒトスジシマカ捕獲調査
 山下公園、横浜公園、新横浜公園

公園名	調査定点	捕獲数		
		雌	雄	合計
山下公園	①	20	6	26
	②	7	5	12
	③	197	189	386
横浜公園	④	91	32	123
	⑤	33	16	49
	⑥	21	18	39
新横浜公園 (日産スタジアム)	⑦	8	1	9
	⑧	20	5	25
	⑨	7	1	8
合計		404	273	677

ひとおとり
〈人 囀法によるヒトスジシマカ雌成虫消長：山下公園、横浜公園、新横浜公園〉

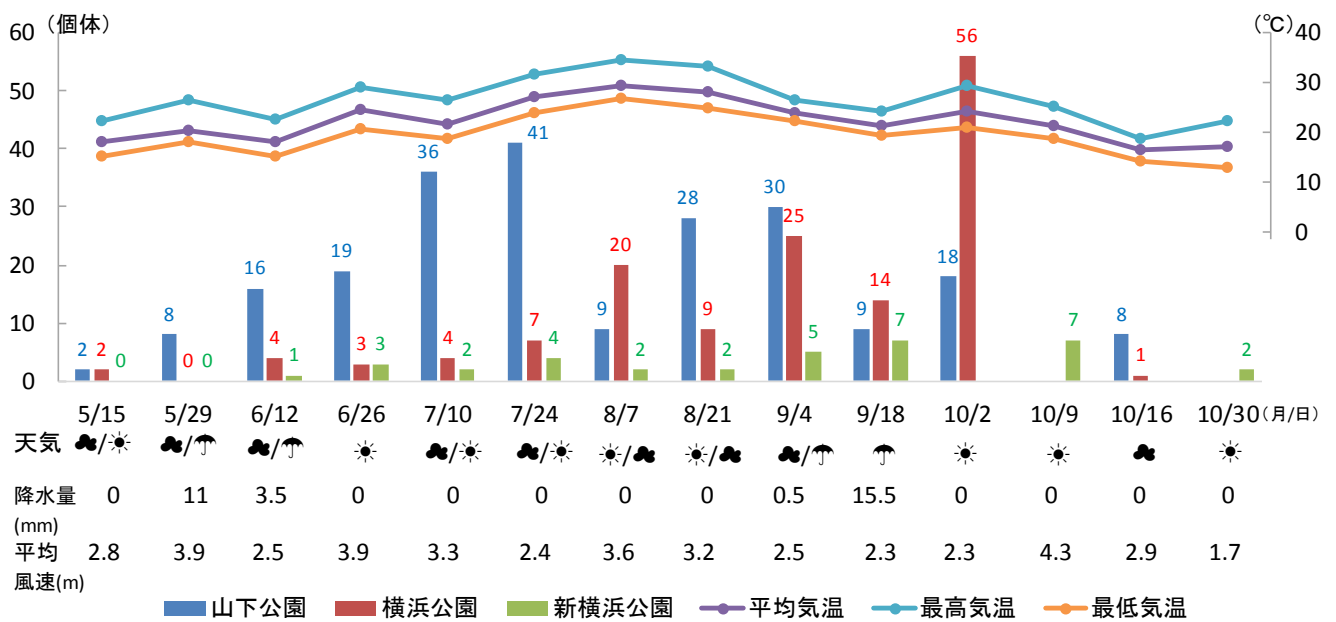
ひとおとり
 人 囀法による捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の各公園の消長（3定点合計）と横浜气象台の気象データを図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、山下公園は、5月から10月の調査期間を通じて捕獲されました。横浜公園は、5/29のみ捕獲されず、新横浜公園は、5/15と5/29の調査では、捕獲されませんでした。

山下公園の各調査回のヒトスジシマカ雌成虫捕獲数は、初回調査の5/15に2個体捕獲され、その後7/24まで増加し続け、7/10には36個体、7/24には41個体と多くなりました。横浜公園は、7月までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、8/7に20個体、9/4に25個体と増減を繰り返しながら、10/2には、56個体と調査期間中で最も多くなりました。また、新横浜公園は、調査期間を通じて、少ない捕獲数でした。



ヒトスジシマカ 雌成虫



*10/2と10/16は山下公園、横浜公園を調査 10/9と10/30は新横浜公園のみ調査

ひとおとり
図4 人 囀法によるヒトスジシマカ雌成虫消長と気象データ：山下公園、横浜公園、新横浜公園

気象データ：気象庁ホームページから

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=46&block_no=47670&year=2019&month=&day=&view=

〈ウイルス検査〉

ひとおとり
 ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫10,191個体、人 囀法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫404個体について、フラビウイルス属（デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス）及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ホームページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ホームページ：感染症発生状況資料集>病原体情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】

食品中の動物用医薬品検査結果(令和元年11月)

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、令和元年11月に健康福祉局食品専門監視班が収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。魚介類9検体(さけ目魚類(サーモン2検体)、すずき目魚類(ブリ1検体)、甲殻類(エビ1検体)、その他の魚類(ヒラメ5検体))について検査を行った結果、表に示すとおり、全ての項目で不検出でした。

表 魚介類中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果				検出限界
	さけ目 (2検体)	すずき目 (1検体)	甲殻類 (1検体)	その他の魚類 (5検体)	
【合成抗菌剤】					
マラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファペリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】					
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【理化学検査研究課 微量汚染物担当】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(令和元年10月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和元年10月に健康福祉局食品専門監視班が市内結婚式場から、各区福祉保健センターが市内の小学校からそれぞれ収去した特定原材料除去食について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

結婚式場から収去した原材料に卵を使用していないとされる食品8検体と、小学校から収去した卵除去食20検体、合計28検体について卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	検体数	陽性数
そうざい類 (大海老のチリソース、親子丼の具等)	27	0
その他 (フルーツ盛り合わせ)	1	0

2 乳の検査

結婚式場から収去した原材料に乳を使用していないとされる食品8検体と、小学校から収去した乳除去食7検体、合計15検体について乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	検体数	陽性数
そうざい類 (シーフードマリネ、さけのクリーム煮等)	14	0
その他 (フルーツ盛り合わせ)	1	0

3 小麦の検査

結婚式場から収去した原材料に小麦を使用していないとされる食品8検体と、小学校から収去した小麦除去食8検体、合計16検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

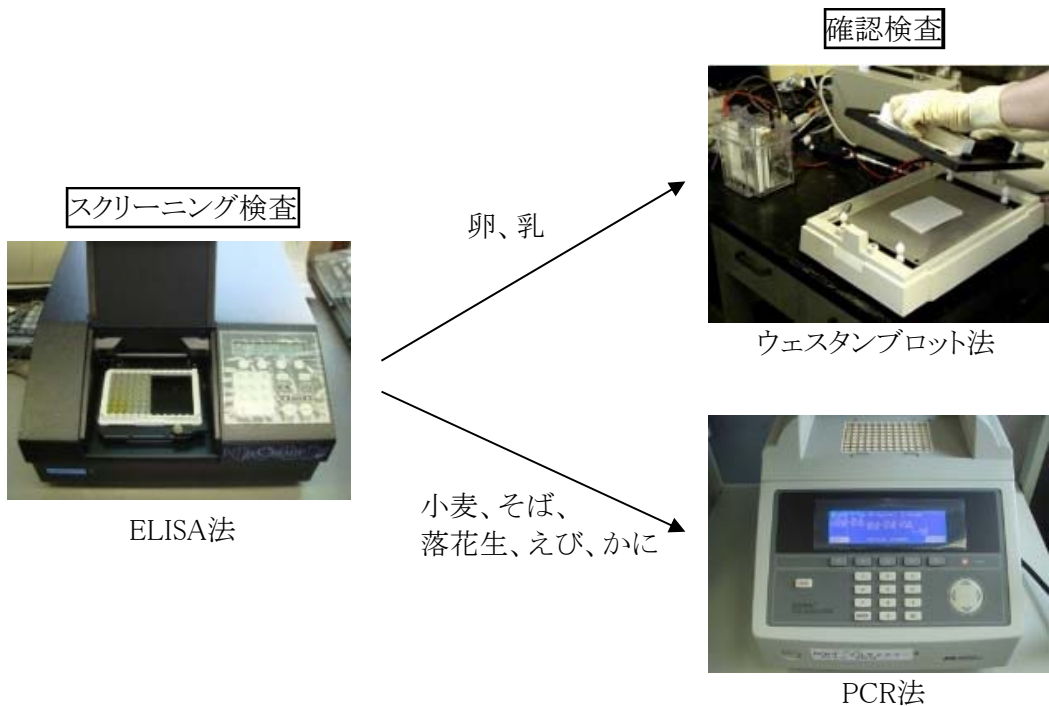
検体名	検体数	陽性数
菓子類 (紅茶のゼリー等)	3	0
そうざい類 (鯛塩焼きレモン添え、チリコンカーン等)	13	0

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。今回の検査では全て陰性でしたが、陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 12月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行注意報が発令されました(A型が多くを占めています)
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

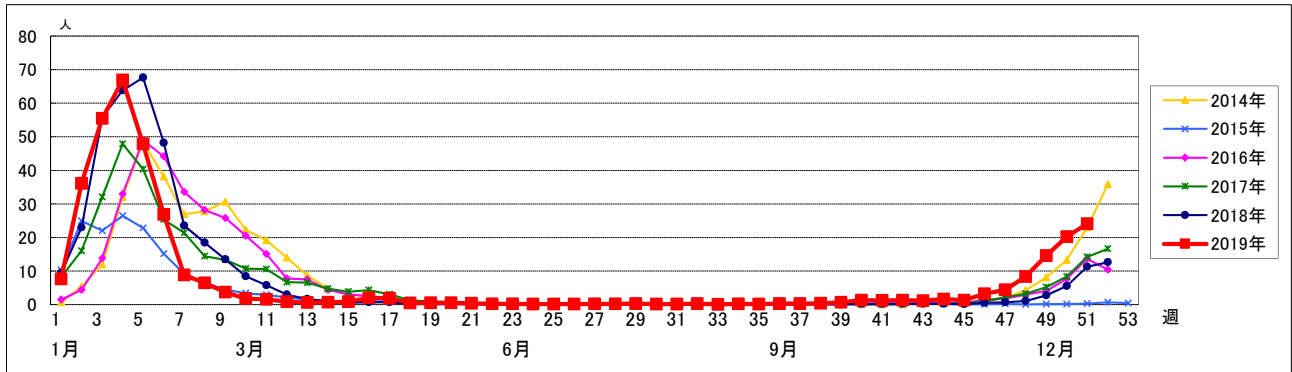
腸管出血性大腸菌感染症	9件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	5件
ウイルス性肝炎	2件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	5件
急性脳炎	5件	風しん	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が4件(うち1件は無症状病原体保有者)、O111が2件、O115が1件(無症状病原体保有者)、O121が1件、O不明が1件(無症状病原体保有者)報告されました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎: 同性間性的接触による感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 2件の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎: EBVの報告が2件あり、いずれも感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件(病原体はいずれもインフルエンザ)、10歳代の報告が3件(病原体はインフルエンザ2件、不明1件)ありました。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む): 無症状病原体保有者が2件で、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、詳細不明が1件でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種なし)、60歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種なし)、70歳代の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、80歳以上の報告が3件(ワクチン接種あり1件、不明2件)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 20歳代の臨床診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は国内3件、不明2件で、感染経路は異性間性的接触が4件、不明1件でした。性別は男性3件、女性2件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される70歳代の報告が1件ありました。
- 百日咳: 10歳代が2件(ワクチン接種あり)、20歳代が1件(ワクチン接種不明)、80歳代が2件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例1件(20歳代男性、ワクチン接種不明)が報告されています。

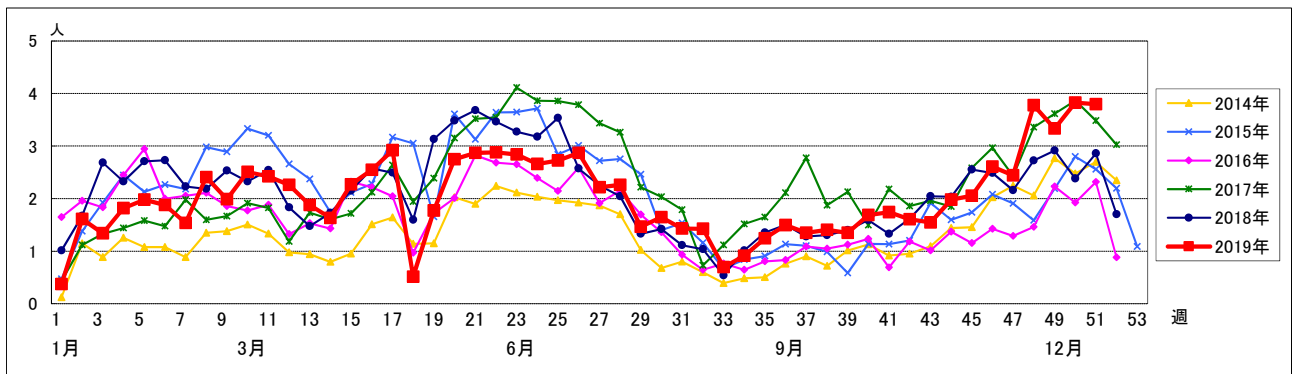
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第48週	11月25日～12月 1日
第49週	12月 2日～12月 8日
第50週	12月 9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

1 インフルエンザ: 市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。第49週に14.59となり、流行注意報が発令され、第50週で20.17、第51週で24.06となっています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 夏に報告数が減少していましたが、冬季に入って報告数が増加しています。第50週で3.83、第51週で3.80となっています。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 4件	淋菌感染症	男性: 8件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.67	0.33	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月期(第48週～第51週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点24件、基幹定点11件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは10件でした。

ウイルス分離59株と各種ウイルス遺伝子7件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果12月期(第48週～第51週)#

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *	R S ウ イル ス 感 染 症	手 足 口 病 *	無 菌 性 髄 膜 炎
インフルエンザ AH1pdm型			54 1			1
インフルエンザ AH3 型			2			
アデノ 3 型	1					
コクサッキー A16 型					2	
パラインフルエンザ 1型		1				
RS				1		
ライノ	2	1				
合計	1 2	2	56 1	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:疑い含む

2020年1月号から検査結果報告期間を月末締めではなく、感染症発生動向調査の報告期間(9ページ「報告週対応表」参照)と一致させました。12月期(第48週～第51週)は2019年12月号と第48週分が重複記載になっています。

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月期(第48週～第51週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌1件、大腸菌1件、サルモネラ属菌1件。非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌10件、侵襲性肺炎球菌1件、非結核性抗酸菌1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌11件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血レンサ球菌3件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ2件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(第48週～第51週) #

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O6 (1)
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (1)
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	10	<i>Klebsiella aerogenes</i> (4)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)
	非定点		
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus subsp. abscessus</i> (1)
保健所	腸管出血性大腸菌	11	O157:H7 VT1 VT2 (1)、O157:H7 VT2 (3)、 O157:H- VT2 (2)、O111:H- VT1 (2)、 O121:H19 VT2 (1)、O115:H10 VT1 (1)、 OUT:HUT VT1 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> (2)
	劇症型溶血レンサ球菌	3	A群溶血性レンサ球菌 (3)

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
保健所	レジオネラ	喀痰	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、 不検出 (1)

小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T4 (2)、T6 (1)、T28 (1)

2020年1月号から検査結果報告期間を月末締めではなく、感染症発生動向調査の報告期間(9ページ「報告週対応表」参照)と一致させました。12月期(第48週～第51週)は2019年12月号と第48週分が重複記載になっています。

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和元年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。平成31年3月26日より、新しいホームページへの移行に伴い、URLの変更が行われ、平成31年4月以降のアクセス件数は、新しいホームページでの集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和元年12月の総アクセス数は、420,042件でした。前月に比べ約13%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*173.1%、保健情報10.8%、検査情報月報6.2%、食品衛生2.9%、薬事2.1%、生活環境衛生1.5%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

12月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「大麻(マリファナ)について」、3位は、「インフルエンザ流行情報(2019/2020)」でした。8位には、「パストツレラ症について」が入っています。

表1 令和元年12月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	81,037
2	大麻(マリファナ)について	11,635
3	インフルエンザ流行情報(2019/2020)	8,941
4	トキソプラズマ症について	7,801
5	インフルエンザワクチンについて	6,108
6	EBウイルスと伝染性単核症について	6,030
7	インフルエンザについて	5,820
8	パストツレラ症について	5,246
9	衛生研究所トップページ	4,418
10	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,314

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

「インフルエンザ流行情報(2019/2020)」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2019.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和元年12月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 令和元年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
C型肝炎について	1
インフルエンザワクチンについて	1

2 追加・更新記事

令和元年12月に追加・更新した主な記事は、9件でした(表3)。

表3 令和元年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 2日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載
12月 5日	横浜市インフルエンザ流行情報9号	掲載
	横浜市風しん流行情報26号	掲載
12月12日	横浜市インフルエンザ流行情報10号	掲載
12月13日	Bウイルス病(Bウイルス感染症)について	更新
12月19日	横浜市インフルエンザ流行情報11号	掲載
12月26日	横浜市インフルエンザ流行情報12号	掲載
12月27日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載
	大麻(マリファナ)について	更新

【 感染症・疫学情報課 】